

2026年5月19日(火) ハコラク6月号 掲載

ドクターコラム『ロボット支援下手術について』

外科 高橋 徹 医長

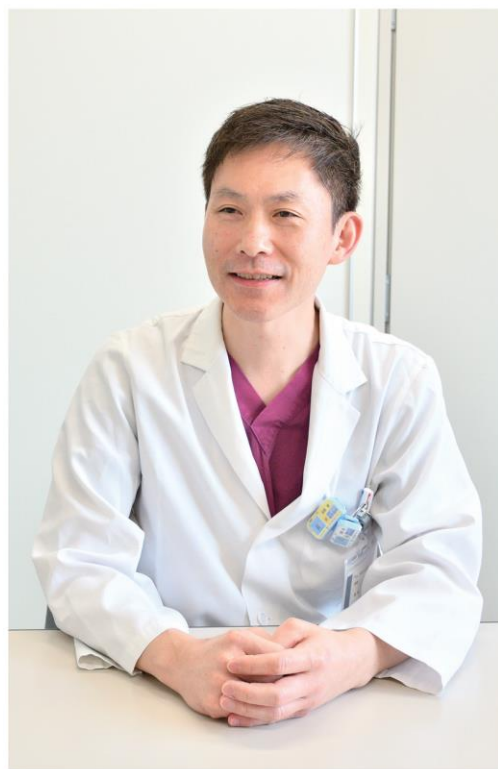
Doctor
Column

外科

ロボット支援下手術について

ロボット支援下手術とは、お腹に炭酸ガスを入れて膨らませた空間にカメラや手術器具を挿入し、医師が専用のロボットを操作して行う手術です。従来の腹腔鏡手術と同様に体への負担が少ない方法ですが、ロボットの機能を活用することで、より精密で安定した操作が可能になります。

ロボットには手ぶれを補正する機能があり、人の手では難しい微細な操作も安定して行えます。また、器具の先端は人の手首以上に自由に動くため、体内の狭い空間でも複雑な処置が可能です。さらに三次元画像により奥行きや位置関係を把握しやすく、より安全で丁寧な手術につながります。



函館中央病院

外科

高橋 徹 医長

従来の腹腔鏡手術は傷が小さく回復が早い一方で、器具の動きが直線的で手ぶれの影響を受けやすいという課題がありました。ロボット支援下手術はこれらを補い、出血の軽減や合併症の低減が期待されています。

ロボット機器はアメリカで開発され、日本でも早期に導入されましたが、保険適用となったのは2012年の前立腺がん手術からであり、その後は胃がん、大腸がん、肺がんなどへと対象が広がっています。また、ロボット機器は日本でも製造され、現在数種類のロボットが実際の手術で活躍し、腹腔内悪性腫瘍を中心に多くの手術で保険診療として受けることが可能となりました。

ただし、すべての患者さんに適しているわけではなく、病状や体の状態、医療機関の体制などを踏まえて適応が判断されます。安全に行うためには、十分な経験を持つ医師と設備の整った医療機関で実施されることが重要です。

現在、がんに対する取り組みは、健康増進法に基づいて市区町村が主体となつてがん検診を推奨しております。がんの進行に関わらずロボット支援下手術は可能ですが、早期であるほど、手術適応となつた場合に患者さんの負担・侵襲はさらに軽減できます。がん検診を積極的に受診することを勧めたいのと、高度な医療技術を駆使して健康を長く維持できるように支援していきたいと考えております。

略歴

平成12年、札幌医科大学医学部卒業後、平成30年まで北海道大学病院はじめ道内各医療機関で勤務。その間、平成22年から25年までスウェーデン・カロリンスカ大学（移植外科学講座）留学。石川県立中央病院、順天堂大学医学部附属浦安病院・順天堂医院、旭川赤十字病院、札幌東徳洲会病院勤務を経て、令和7年、函館中央病院外科医長に就任した。日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器外科専門医、日本消化器病学会消化器病専門医。